

# 土壌汚染情報公開台帳

整理番号	1060149	調製年月日	令和4年6月17日	契機	第116条第1項
所在地	(地番) 東京都台東区東上野一丁目11番8	契機	(住居表示) 東上野1-4-3	年 月 日	
訂正年月日	第116条の3第1項	令和4年6月17日			
工場又は指定作業場の名称 (土地の改変に係る事業の名称)	第116条の3第3項 (有)東松鍍金工場	令和5年12月13日	汚染地面積	91.60㎡	調査面積
汚染状況調査の方法について特筆すべき事項			91.60㎡	91.60㎡	対策面積
当該土地において講じられた健康被害の防止又は周辺地下水汚染拡大の防止のための措置がある場合はその内容					0.00㎡
当該土地に第122条第1項第2号の土壤がある場合はその旨 (汚染の原因が水面埋め立て材に由来する場合はその旨)					
当該土地が規則第54条第3項第1号に該当する場合は、その旨					
当該土地が規則第55条第3項に該当する場合は、その旨					
当該土地が土壌汚染対策法の規定に基づき要措置区域又は形質変更時届出区域に指定された区域を含む場合は、その旨					
備考					
土壌の汚染状況	報告受理年月日	令和4年6月17日	特定有害物質の種類	鉛及びその化合物	汚染状況調査の委託者 株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
地下水の汚染状況	報告受理年月日	令和4年6月17日	特定有害物質の種類	シアン化合物、鉛及びその化合物	汚染状況調査の委託者 株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
地下水の汚染状況(対象地境界)	報告受理年月日		特定有害物質の種類		汚染状況調査の委託者
土地の措置又は 改変状況	着手予定時期	令和4年7月25日	完了予定時期	令和5年1月31日	実施者
	着手時期	令和4年6月10日	完了時期	令和5年7月10日	土地の措置又は改変の種類
	届出時期	令和4年6月17日	掘削除去	掘削除去	土壌搬出
	着手予定時期	令和4年6月10日	掘削除去	掘削除去	汚染土壌の処理方法
	着手時期	令和4年6月10日	掘削除去	掘削除去	浄化(抽出-洗浄処理)
	届出時期	令和4年6月10日	掘削除去	掘削除去	浄化(抽出-洗浄処理)

- 図面類
- 汚染状況調査の実施内容及び調査結果に係る書類等
  - 当該土地に係る健康被害防止又は周辺への地下水汚染の拡大防止のために講じられた措置の実施場所及び実施状況を明示した図面
  - 当該土地に係る汚染拡散の方法を明示した図面
  - 対象地周辺の地図

特定有害物質の使用、排出等の状況	
業種及び主要製品	・(有)東松鍍金工場・・・メッキ工場
特定有害物質の種類、使用目的、使用形態等	・(有)東松鍍金工場・・・ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、カドミウム、シアン、セレン、鉛、ほう素(電気メッキに使用)
特定有害物質の使用状況	・(有)東松鍍金工場・・・ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、カドミウム、シアン、セレン、鉛、ほう素(総量不明)
	使用期間 1953年(昭和28年)1月～2021年(令和3年)10月
特定有害物質の排出状況	(有)東松鍍金工場では、水質汚濁防止法および下水道法に基づく特定施設が設置されていた。シアン系廃水は貯槽が満水になったら、業者に処理を委託していた。また、事業場廃止のため廃液等は業者に処分を委託した。
特定有害物質の使用場所等	△別紙1のとおり
地下施設の有無及び概要	なし
地表の高さの変更及び地質に係る情報	なし
土壌汚染対策法又は条例に基づく調査及び措置の履歴	なし
既往調査及び措置に関する情報	なし
その他特記事項	

備考 1 別紙が2枚以上となる場合は、それぞれに番号を付けること。  
2 △印の欄には、報告書に添付する各別紙に一連番号をつけた上、該当する別紙の番号を記入すること。  
3 この様式各欄に記入しきれないときは、図面、表等を利用すること。



※地理院タイル（国土地理院）を利用して作成

縮尺:1/2,500



土壌ガス調査結果一覧表

区画名		A1		
検体名称		A-1		
採取年月日		2/21		
土壌ガス (volppm)	第一種特定有害物質	クロロエチレン	ND	0.1
		1,1-ジクロロエチレン	ND	0.1
		1,2-ジクロロエチレン	ND	0.1
		ジクロロメタン	ND	0.1
		テトラクロロエチレン	ND	0.1
		1,1,1-トリクロロエタン	ND	0.1
		トリクロロエチレン	ND	0.1

備考1 : NDは、不検出(定量下限値未満)を示す。

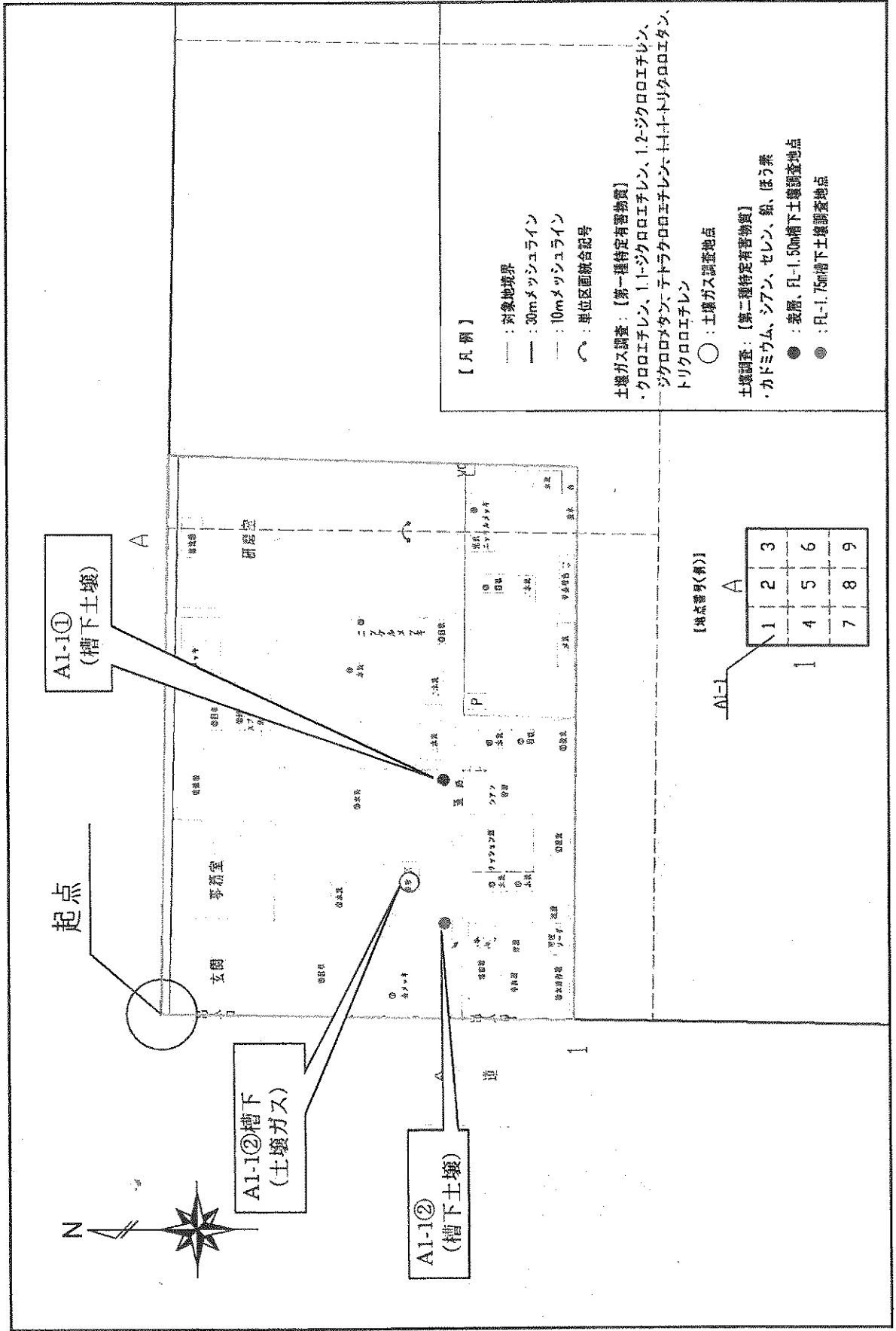
土壌調査結果一覧表

区画名			A1			基準値	定量下限値
単位区画名			A1-1				
検体名称			A-1① 表層	A-1① 槽下 GL-1.5m	A-1② 槽下 GL-1.75m		
採取月日			2/21	2/21	2/21		
土壌溶出量 (mg/L)	第二種特定有害物質	カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	0.003	0.0003
		シアン化合物	0.1	ND	ND	不検出	0.1
		セレン及びその化合物	0.002	ND	0.004	0.01	0.001
		鉛及びその化合物	0.061	0.017	0.064	0.01	0.001
		ほう素及びその化合物	ND	ND	0.2	1	0.01
土壌含有量 (mg/kg)	第二種特定有害物質	カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	45	4.5
		シアン化合物	29	ND	ND	50	5
		セレン及びその化合物	ND	ND	ND	150	15
		鉛及びその化合物	770	ND	ND	150	15
		ほう素及びその化合物	ND	ND	ND	4000	400

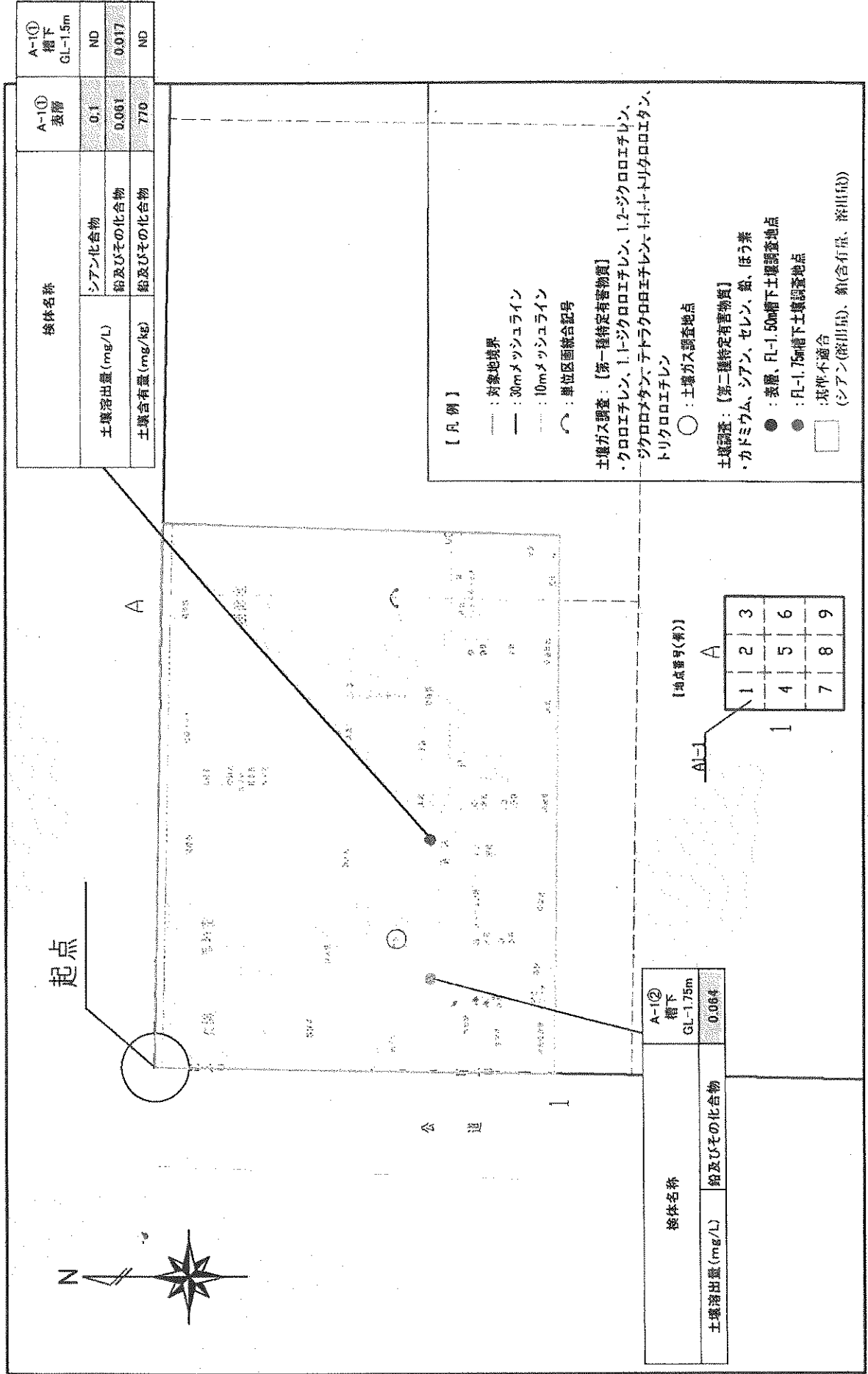
備考1 : NDは、不検出(定量下限値未満)を示す。

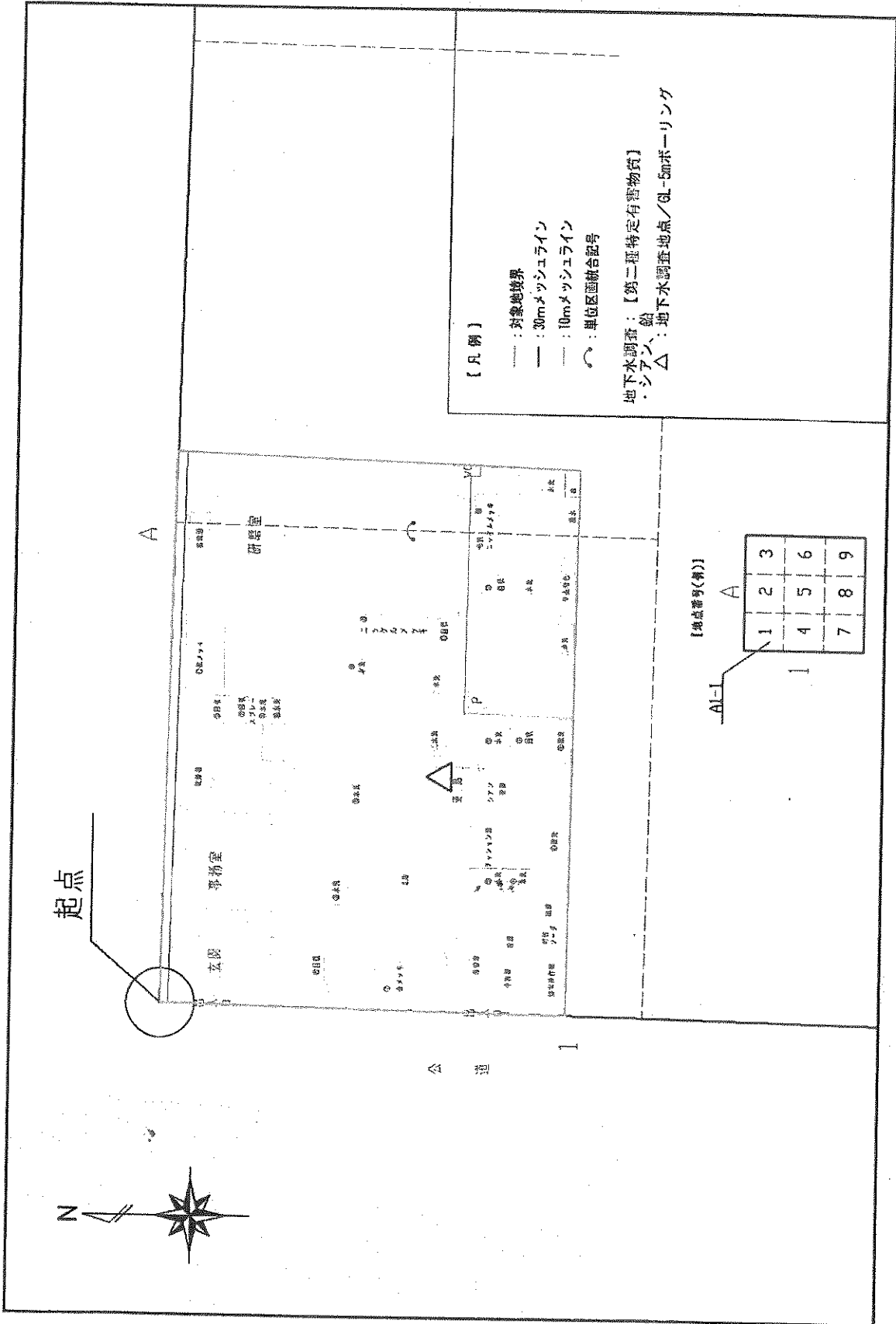
備考2 : 0.1 は、指定基準不適合を示す。

土壌調査地点図



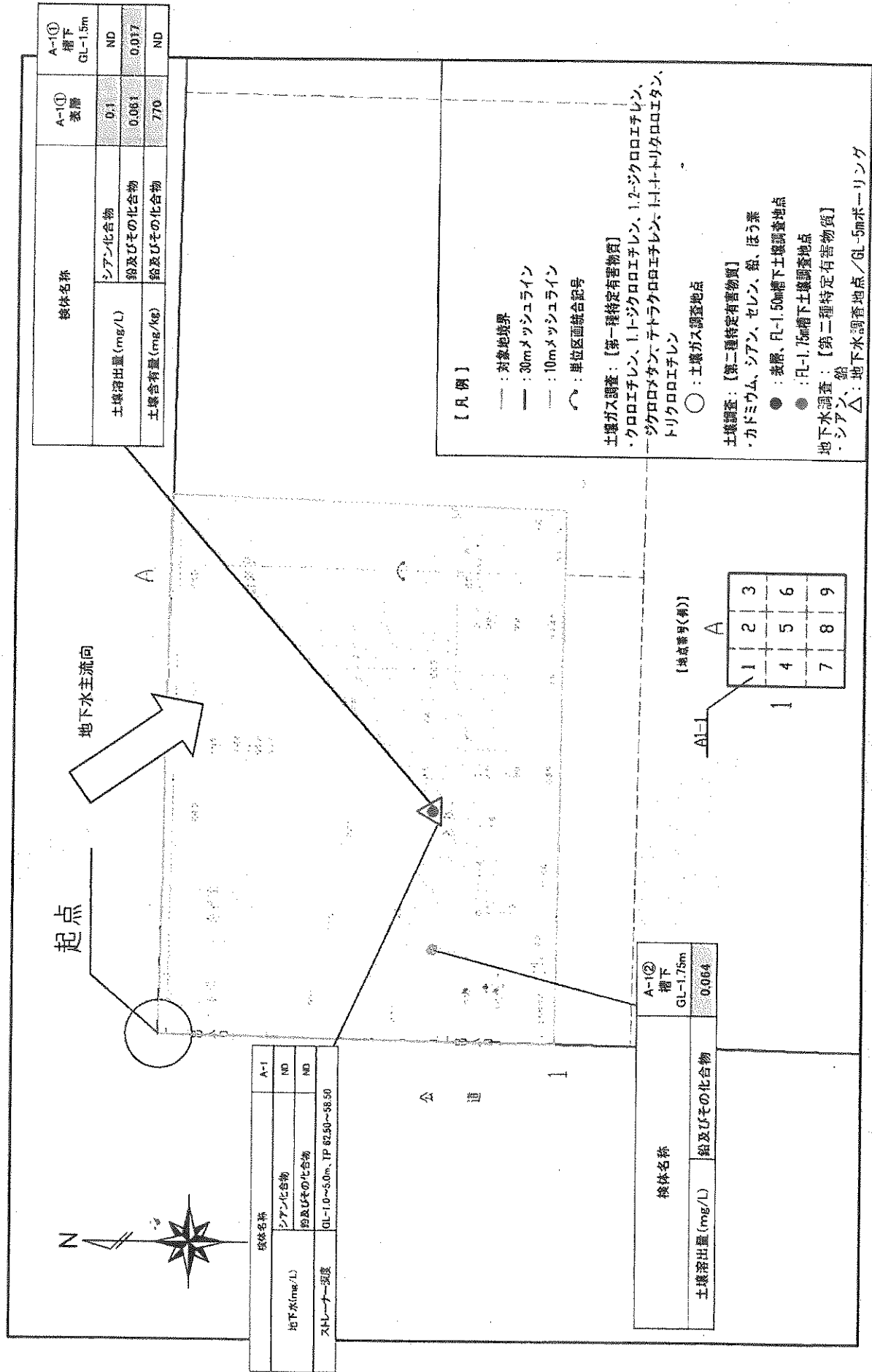
土壤調査結果平面図





土壤調査及び地下水調査結果平面図

別紙3





## 地下水調査結果の一覧表

地下水調査結果一覧表

区画名		A1	基準値	定量下限値	
単位区画名		A1-1			
検体名称		A-1			
採取月日		4/27			
地下水 (mg/L)	第二種特定有害物質	シアン化合物	ND	不検出	0.1
		鉛及びその化合物	ND	0.01	0.001

備考1 : NDは、不検出(定量下限値未満)を示す。

備考2 : 大字 は、指定基準不適合を示す。

地下水の状況

1. 対象地における地形地質概況

対象地は本郷台西縁から広がる低地に位置し、標高は約2.5mである。西には本郷台、東には隅田川が東京湾に向かって流れている。

下図より、第1帯水層はGL-2.0m付近であり、帯水層の底面はGL-5.0~6.0m付近にあるものと考えられる。なお、下図ボーリング柱状図における孔内水位はGL-3.30mであった。(柱状図参照)

2. 対象地付近における地下水概況

対象地付近における地形、地質及び地下水位から、地下水の流向は概ね北西側～南東側に流れている。

ボーリング柱状図

1991年5月調査

標高 TP (m)	深度 GL (m)	柱状図	土質名	観察記事	
62.50	-1.0		埋土	0.10mまで碎石、下部はレンガ・コンクリート片及び礫を多く含む。	
61.50	-2.0		砂混じりシルト	砂分が多く、不均質である。	
60.50	-3.0		シルト質細砂	粒子不均質でシルト分が多い。	
59.50	-4.0		細砂	粒子不均質で含水量が多い。3.15m付近より暗灰色に変化する。	
58.50	-5.0		シルト質細砂	粒子不均一でシルト分が多い。	
58.50	-5.0		シルト	硬質なシルトからなる。	
57.50	-6.0		シルト混じり細砂	浮石を混入する。	
56.50	-7.0		凝灰質粘土	硬質な粘性土で少量の砂分を含有する。	
55.50	-8.0				

参照：東京都土木技術支援・人材育成センター 東京の地盤(GIS版)

3. 調査地点の選定理由

表層土壌調査にて、単位区画A1-1でシアン及び鉛の溶出量基不適合が確認されたため。

4. 採取深度の選定理由

対象地付近のボーリング柱状図より、帯水層の底面はGL-5.0~6.0mと考えられ、GL-5.0mまでの地下水を対象とした。

2. 汚染状況を明らかにした図面  
 形質変更時要届出区域の所在地：東京都台東区東上野 1-4-3

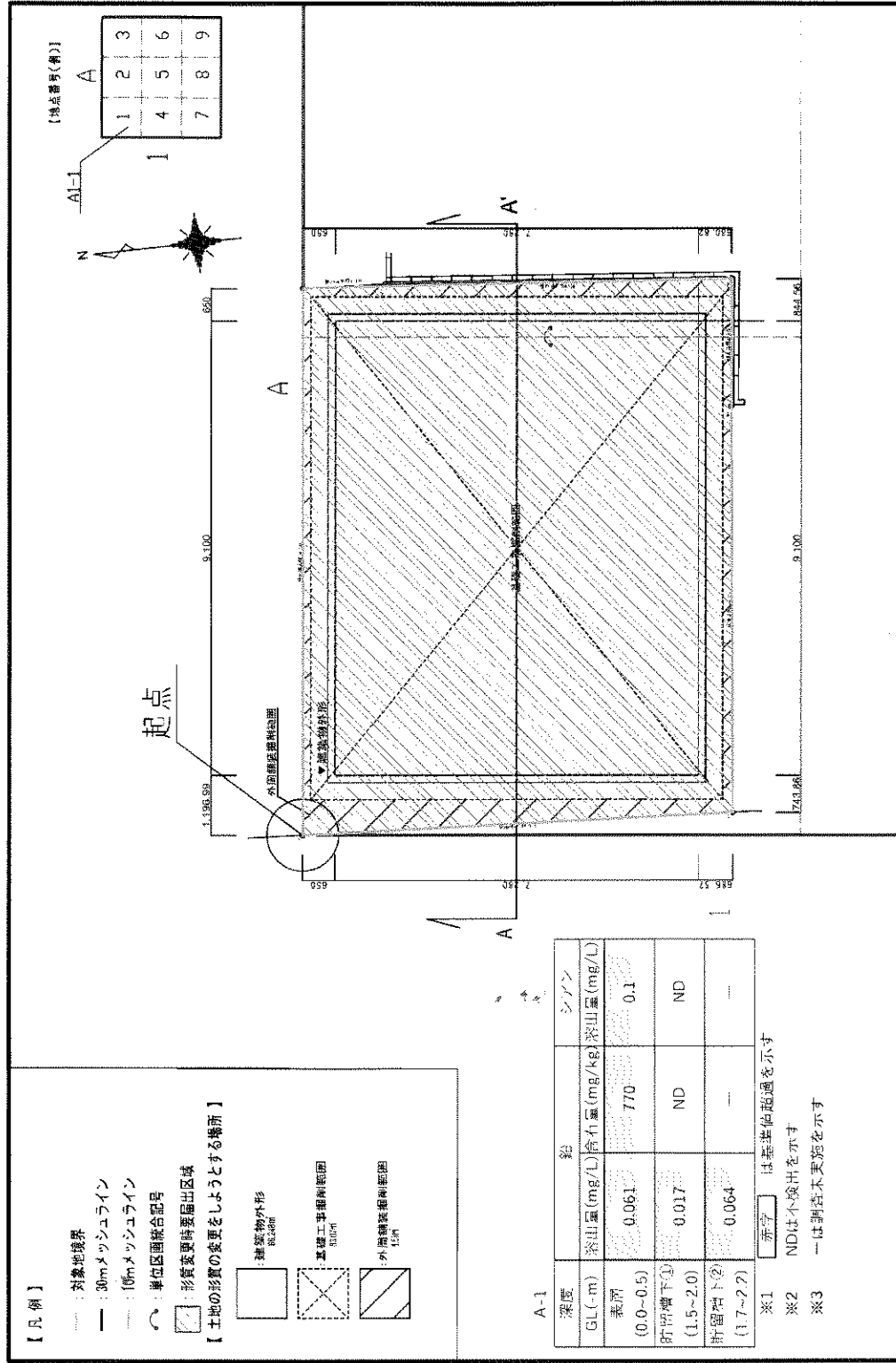


図 2-1 汚染状況を明らかにした図面

4. 施工方法を明らかにした平面図・断面図

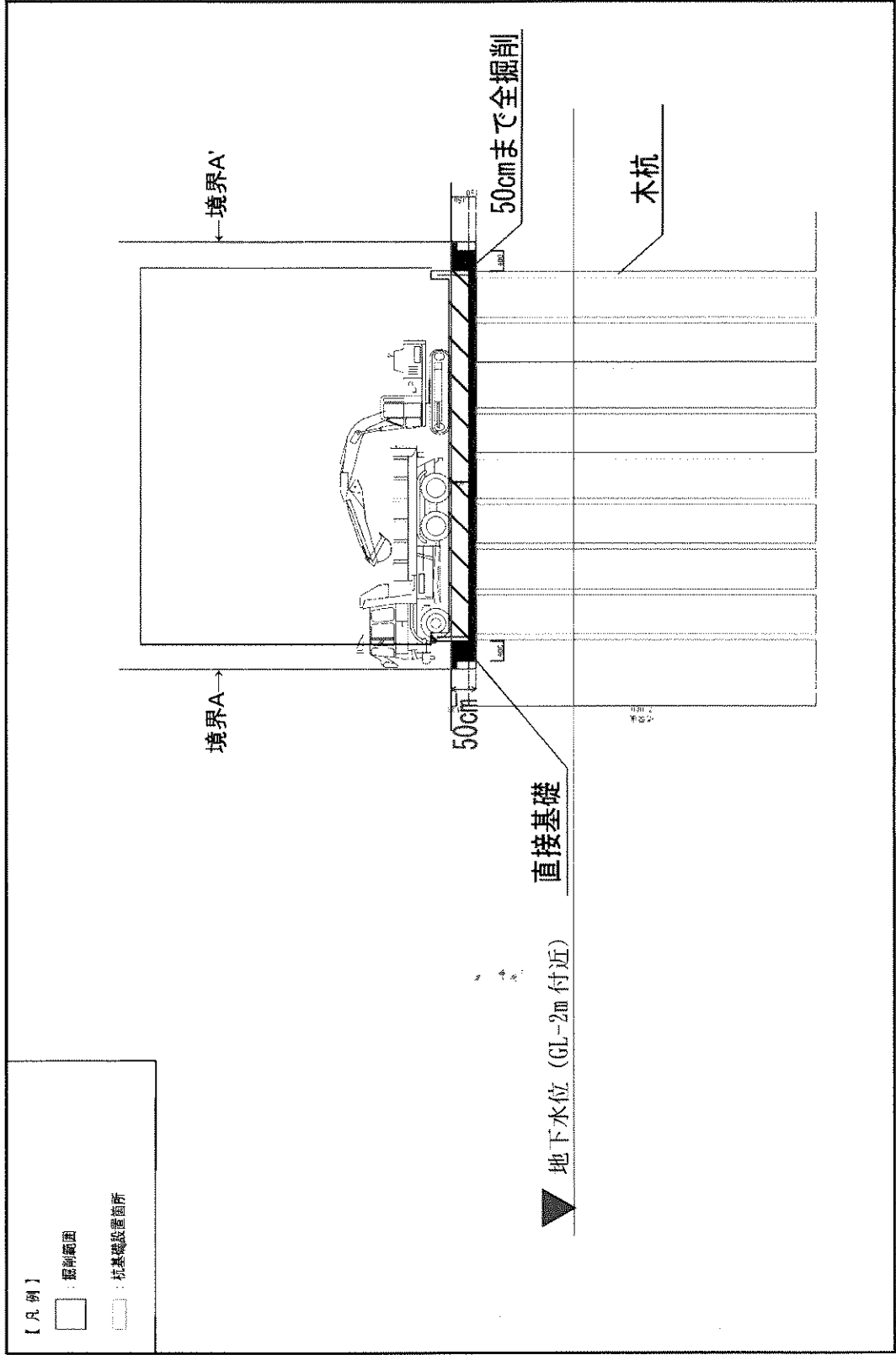


図 4-1 施工方法を明らかにした断面図 (木杭打設)

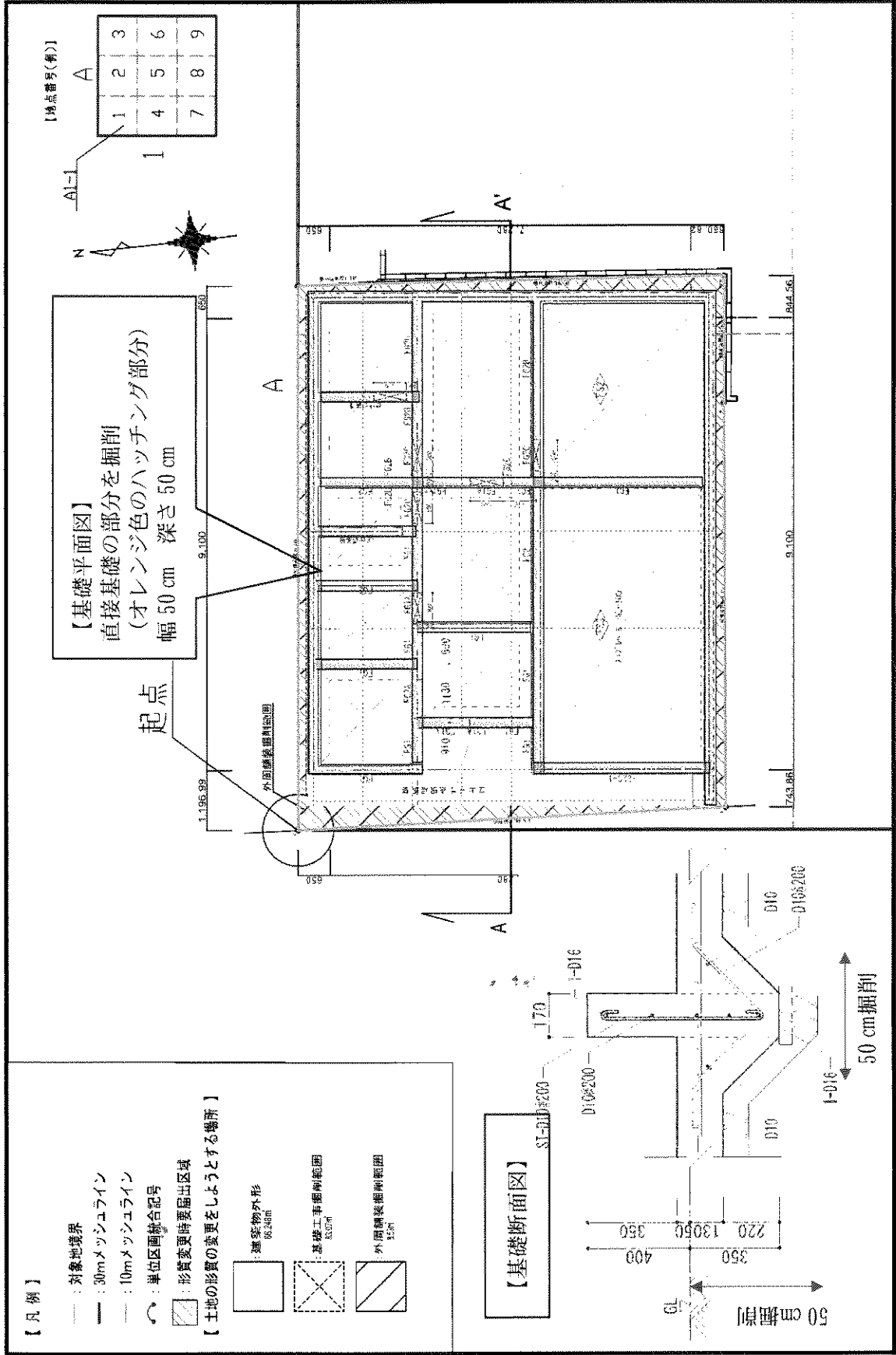


図 4-2 施工方法を明らかにした平面図・断面図（掘削部分）

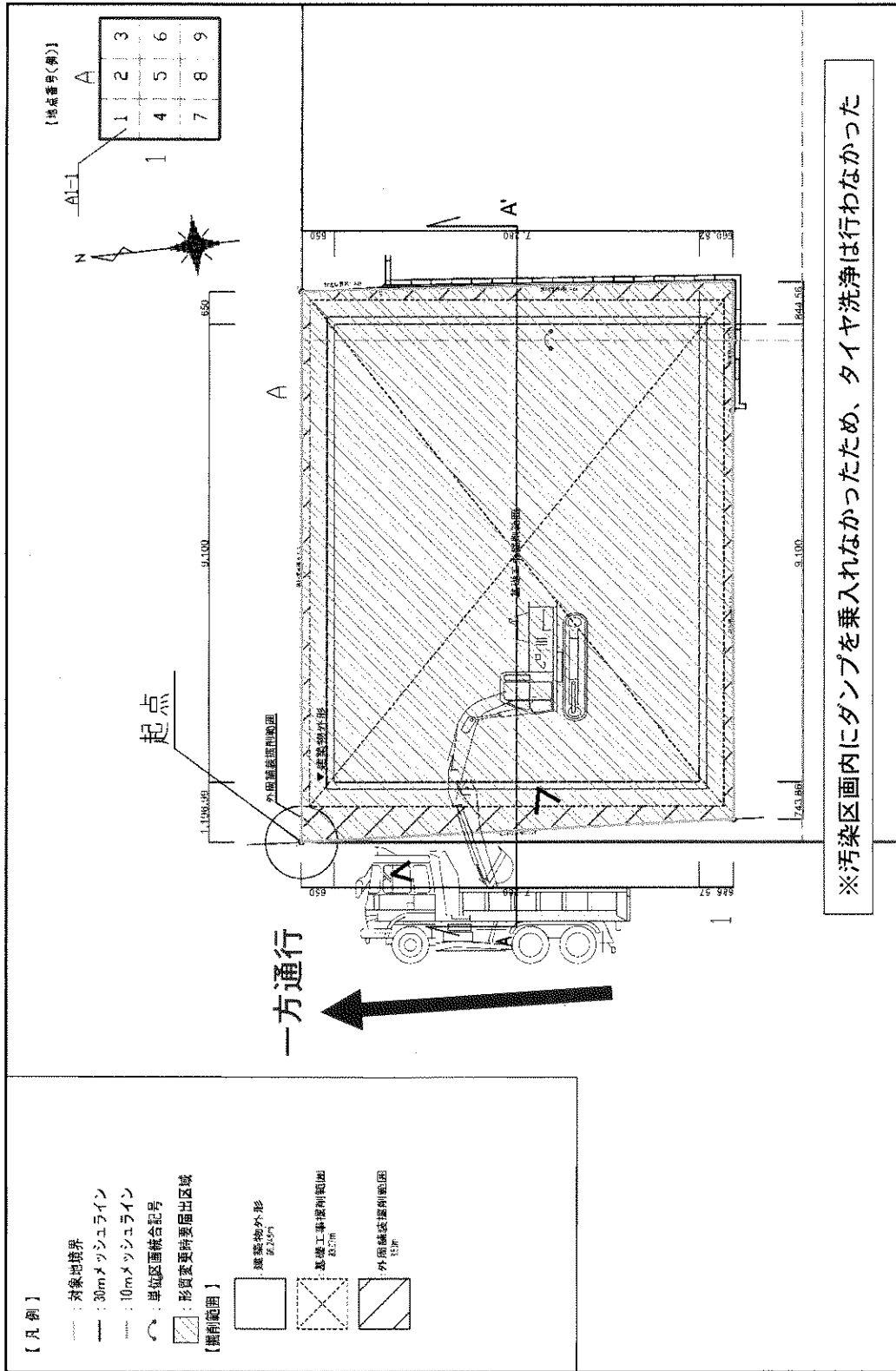


図 4-2 施工方法を明らかにした平面図 (土壌搬出)

## 5. 出来形、地下水モニタリングの結果

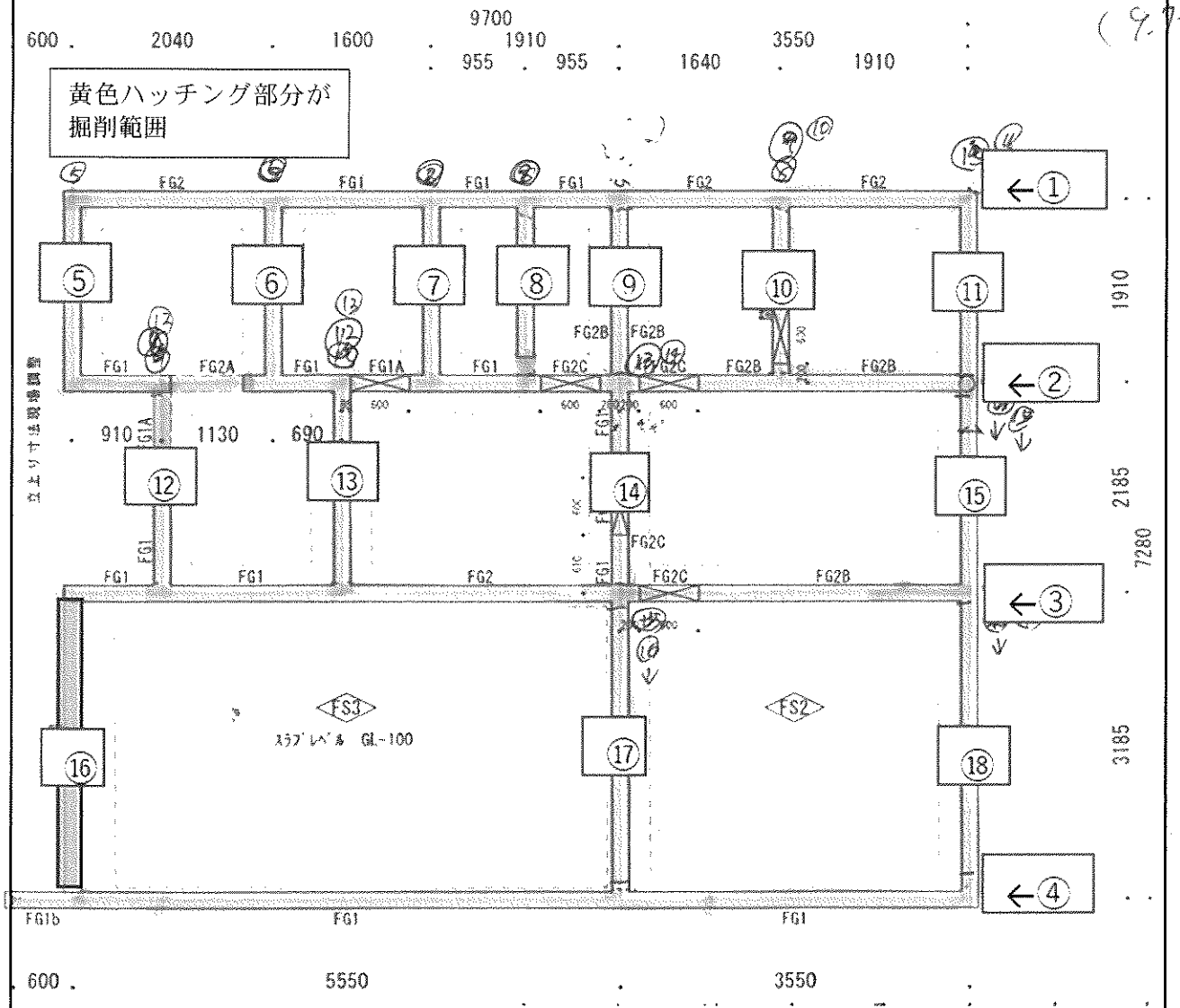
### 【掘削除去の出来形管理】

直接基礎設置部分について掘削を行い、掘削した土壌の一部を場外搬出した。掘削幅は 50 cm、掘削深度は 50 cmであった（図 4-2 参照）。掘削出来形について表 5-1 に示す。

表 5-1 掘削数量表

番号	計算 (単位 mm)	面積(m <sup>2</sup> )	本数	小計 (m <sup>2</sup> )
①②③	$(9700-600+500) \times 500$	4.8	3	14.4
④	$(3550+5550+600+500) \times 500$	5.1	1	5.1
⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	$(1910-500) \times 500$	0.705	7	4.935
⑫⑬⑭⑮	$(2185-500) \times 500$	0.8425	4	3.37
⑯⑰⑱	$(3185-500) \times 500$	1.3425	3	4.0275
		合計		31.8325

このうち、場外搬出は約半分であった ( $31.9\text{m}^3 \div 2 \approx 16\text{m}^3$ )



【地下水モニタリング】

汚染土掘削後に地下水モニタリングを実施した。鉛、シアンについて分析を行った結果、地下水環境基準に適合したことを確認した（表 5-2）。

観測井戸の設置位置を図 5-2 に示す。なお地下水は概ね北西から南東方向に流下していると推定される。

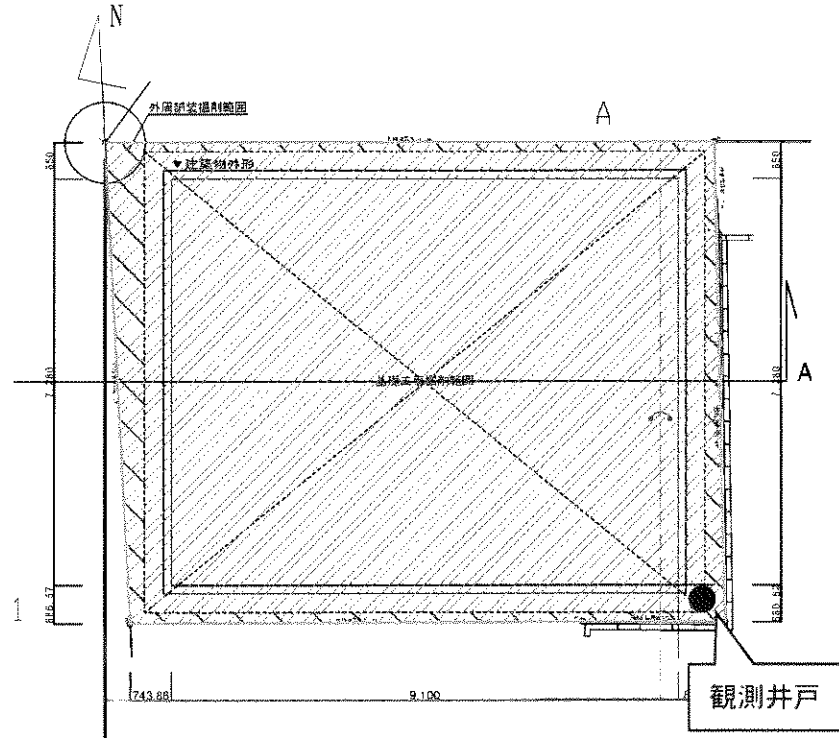


図 5-1 観測井戸設置位置図

表 5-3 地下水分析結果

地点名	採取日	分析項目		地下水位 (GL-m)	備考
		基準値			
		シアン化合物 検出されないこと	鉛 0.01		
観測 井戸	2022/7/15	不検出	ND	2.3	施工前
	2022/9/1	不検出	ND	2.1	施工中
	2022/10/21	不検出	ND	2.5	施工後

※ ND は定量下限値未満

【外部からの土壌搬入】

掘削に伴って外部より搬入した土壌はない



## 6. 建築部外周部の絞り込み調査結果

建築物外周部について、汚染範囲の平面絞り込み調査を行った。分析は鉛（含有量）について実施した。全地点、鉛（含有量）は基準に適合した。

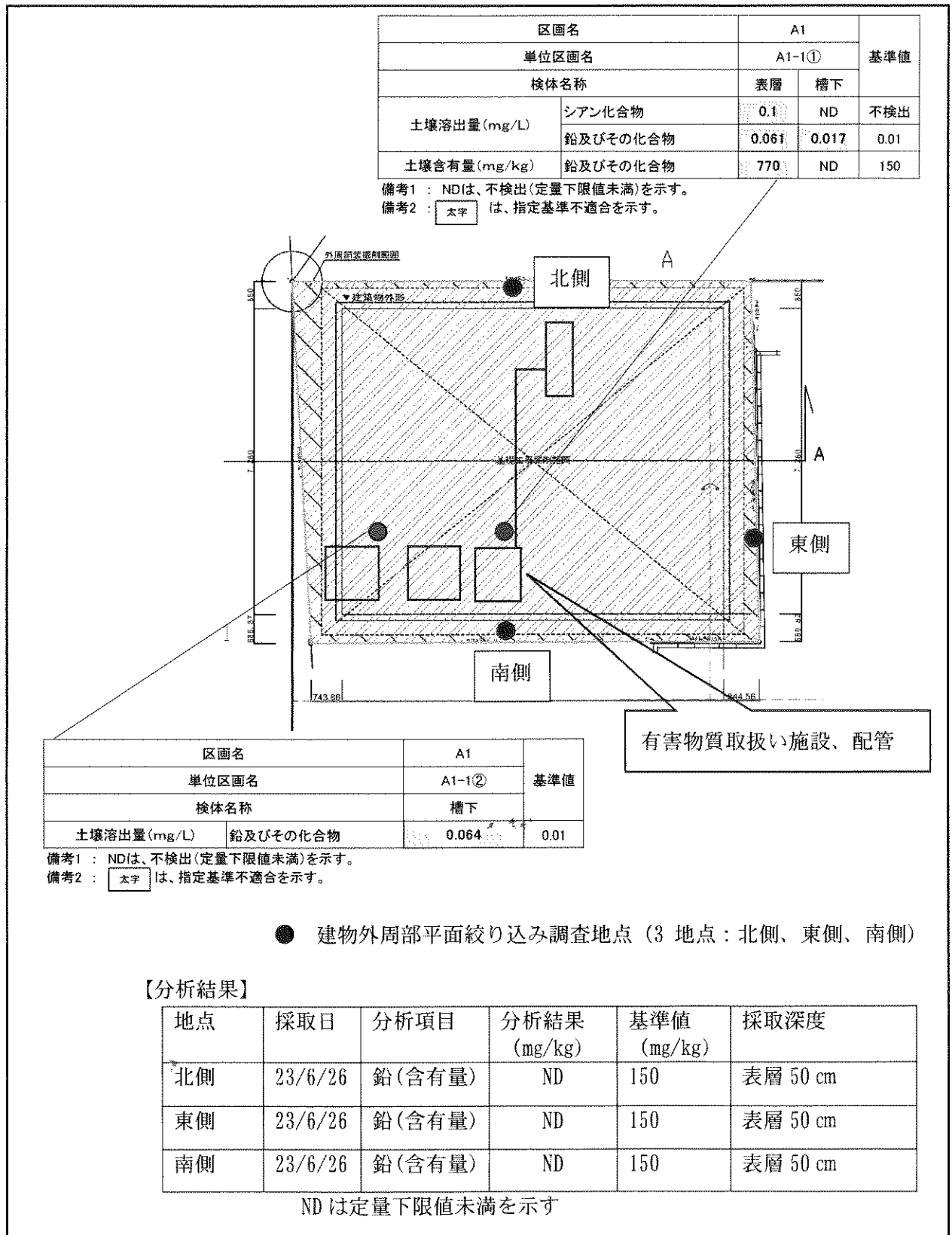


図 6-1 絞り込み調査地点図、結果一覧

7. 措置完了後における当該土地の利用を明らかにした図面

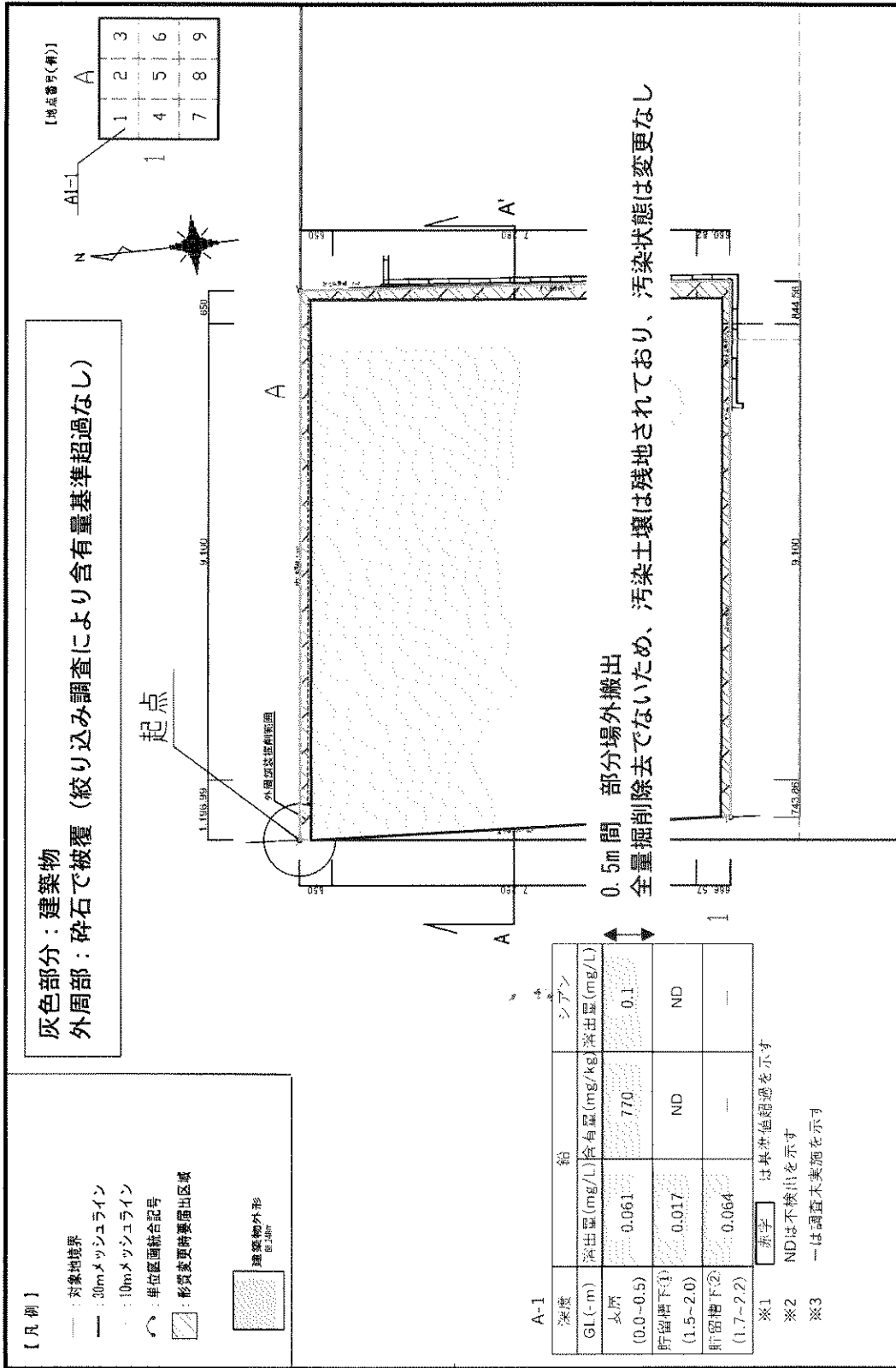


図 7-1 措置完了後における当該土地の利用の方法を明らかにした図面

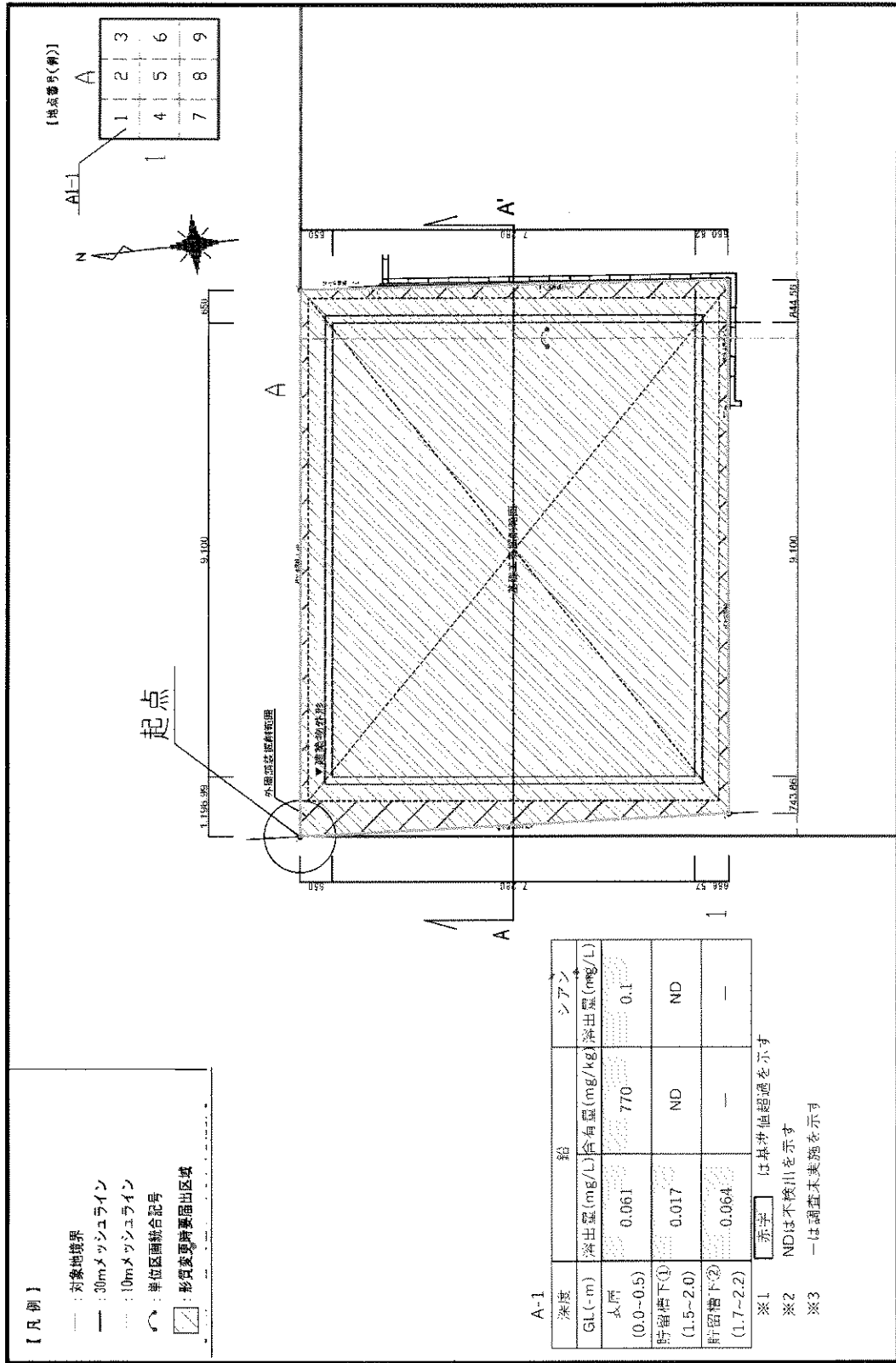


図 7-2 措置完了後における当該土地の利用の方法を明らかにした図面  
 (溶出量基準超過範囲：敷地全域)

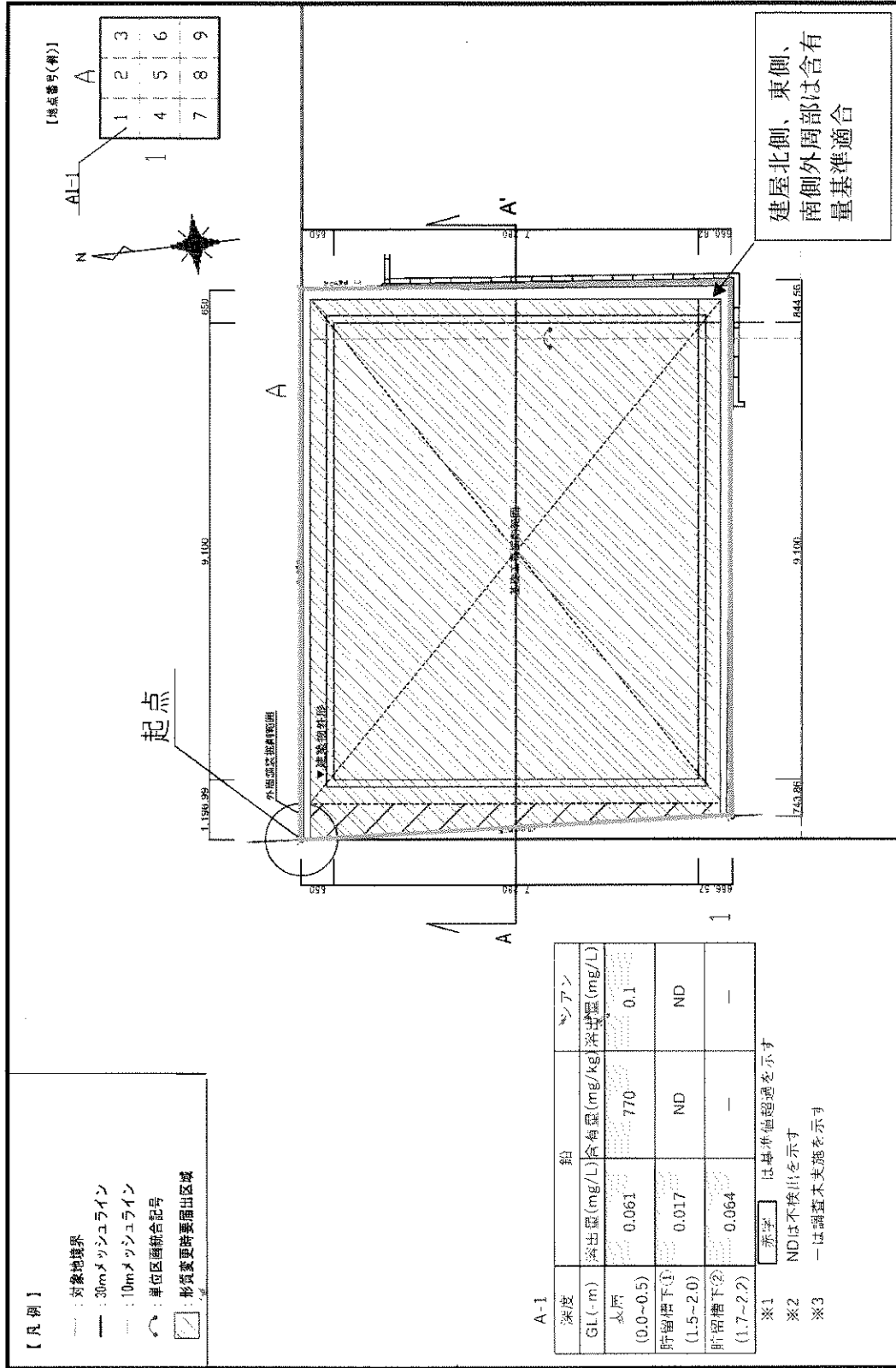


図 7-3 措置完了後における当該土地の利用の方法を明らかにした図面  
 (含有量基準超過範囲：建築建屋部分のみ)